

会 議 録

会議名	平成24年度第2回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成25年2月12日(火) 13:30~15:00
開催場所	宇都宮市役所14A会議室
出席者	【委員】郷間康久, 今井政範, 櫻井啓一, 駒場昭夫, 福田久美子, 大森玲子, 藤本一男, 北條信男, 金枝右子, 大手弘子, 鱒淵伸敏, 石島孝夫, 佐瀬敦, 神山正巳, 仲田陽介, 石井智子, 糸井陽子 【事務局】環境部長ほか32名
公開・非公開	公開
傍聴者	1名(読売新聞社1名)
議題	1. 「平成25年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)」について 2. 焼却ごみの減量化・資源化に向けた今後の取組について 3. その他
会議結果	1. 「平成25年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)」について, 事務局から説明(質疑報告) 2. 焼却ごみの減量化・資源化に向けた今後の取組について, 事務局から説明(質疑報告)

会議内容	
「平成25年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)」について	
糸井委員	資料1(3)3R施策であるが, 家庭で意識してごみの分別を図ると, 焼却ごみは2週間に1度45ℓの量に抑えられることが分かった。 要望として, 小中学生等の教育の場を通してごみ分別の周知啓発をしてほしい。 例えば, 小学生は1週間にどのようなごみが出るか調査を行う。 中学生は, ごみが環境にどのような影響を与えるかについて学習する場をつくるなど, 教育現場に働きかけてはどうか。 先日, 水再生センターを訪問した際に, 一般道路の汚泥は有料と聞いたが, 道路の側溝の汚泥も有料であるのか。
事務局	現在, 小学4年生に向けた社会科補助教材を作成しており, 現場の先生と環境教育を推進している。教材内容が取り組みやすいとの評価もあるので継続して, 取り組んでいきたい。その他, その教材を活用して小中学生に環境出前講座を行っているが, 大人向けの出前講座の充実も図りたい。 汚泥についてであるが, 一般家庭は例えば浄化槽汚泥については浄化槽清掃事業者が収集し, 道路等の側溝に堆積した汚泥は道路の管理者が処分することとなっている。
糸井委員	以前は, 地域において道路側溝の清掃活動を行い, その後事業者が汚泥を収集していたが現在はいかがか。

神山委員	側溝清掃により排出される汚泥は産業廃棄物に該当し、有料となる。
石井委員	紙・布類等の資源物は、時期により排出が集中する。 家庭内で分別を徹底した上で、収集車が来る前にごみステーションに出すが、市の委託車両ではない者が資源物を持ち去ってしまい、むなしく感じる。 資料に記載されている持ち去りに関する数字には表れない数値があると思われるので、数値の見込みにそれらを含めてはどうか。
事務局	資源物の持ち去りについては平成18年1月1日に条例を改正し、持ち去りを禁止している。市民の通報を基に、パトロールしたり、警告や禁止命令書等を交付したり、さらに悪質なものは告発も行っていることから、引き続きパトロールを強化していきたい。
櫻井会長	持ち去り情報があれば、会議終了後に事務局に報告してほしい。
福田委員	事務局の説明から、焼却ごみの減量の目標と見込みに開きがあるとの報告があった。 一方、平成25年度実施計画の中で、目標値と見込み値を掲げているが、達成できなかった分も含めて来年度減量に取り組むのは難しいのではないかと。 説明の中では目玉事業が不明瞭であり、事業がこれまでの延長に感じたが、実施計画の中でどの施策を重点に掲げているのか伺いたい。
櫻井会長	福田委員の質問事項は議題2にまとめられているので、質問が以上であれば議題2に進みたいと思う。1は事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし。

会議内容	
焼却ごみの減量化・資源化に向けた今後の取組について	
櫻井会長	福田委員に対する質問に、事務局から回答いただきたい。
事務局	重点施策は、市民の分別協力度を高めることである。 焼却ごみの中に資源物がどのくらい入っているか組成分析をしたところ、平成22年度に実施した家庭系廃棄物では紙類が14%、プラスチック製容器包装が8%混入していた。平成23年度は数量に換算すると、紙類が14,200t、プラスチック製容器包装が8,200t混入していることがわかった。 平成23年度に実施した事業系廃棄物の組成分析では、紙類が29%、プラスチック製容器包装が11%混入しており、数量に換算すると紙類が13,000t、プラスチック製容器包装5,000tが混入していた。この結果から分別協力度を高めることで現状目標の達成に近づくよう、取組を強化していきたい。 その他の資源化事業として、剪定枝の資源化や小型家電リサイクル法の施行に併せた回収品目の拡大、地域単位の堆肥化及び堆肥の利活用先の確保を行うなど、課題について取り組みたい。

<p>福田委員</p>	<p>家庭ごみの分別意識が低下していると感じることから、次の点について要望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プラごみは嵩張ることから、回収日を増やしてはどうか。 2 給食の生ごみの資源化を啓蒙することは、教育的観点から有効であると考えますが、どのように考えているか。 3 生ごみの資源化のうち、地域単位で堆肥化しているものの現状はどのようになっているか。また、それに関する数値目標等を掲げる必要があるのではないか。
<p>事務局</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 プラごみは焼却ごみより2倍くらいの嵩があることから、回収日の増加について要望が出ているところである。収集コストも加味して、検討していく。 2 現在、中学校4校で給食の生ごみ処理機を導入しており、それ以外は焼却ごみとして処分している。ただし、生ごみ処理機は多量の電気を使用することから、資源化を推進する方法について、教育委員会とともに考えていきたい。 3 地域単位における生ごみの資源化は3地区で実施しており、堆肥は家庭菜園等で利活用されている。利活用先が多ければ、安定的に取り組むことが可能となる。3地区合計して3.5tの減量効果があったと試算されることから、利活用先の確保とともに、拡大を図っていきたい。
<p>福田委員</p>	<p>来年度に利用先は何件増やすかなど数値目標はあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>具体的な数値目標はないが、学校や地域の状況を見ながら推進していきたい。</p>
<p>石井委員</p>	<p>ごみ問題は、生活の中で意識を根付かせなければならないと考える。</p> <p>学校では意図を持って意識化を図ることができるが、一般市民に対してはアンケートを通して意識化を図ることができるのではないかと考える。</p> <p>来年度アンケートの実施を検討し、平成26年度に市の要望を踏まえたメリハリのああるアンケート項目を作成し、ごみ減量を必ず図るという強いメッセージを込めて、全市民に対して行うことは効果があるのではないかと考える。</p> <p>また、アンケートを踏まえた施策を提示することで、市民の意識化が図られると考えるので、実施を検討してほしい。</p> <p>宇都宮市は他市町から転出入する方が多く、それらが多い時期のごみステーションは、引越しごみで一杯になっている。</p> <p>転出入者が市のルールに則った分別が図られるよう、市民課等から転出入者向けに分別に関するチラシを配布するシステムを構築してはどうか。</p> <p>人口の流動に併せて、焼却ごみ削減キャンペーンを1～3月に実施し、意識啓発を図ってはどうか。その際に、市の方針を記したチラシを配布すると、効果があるのではないかと考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民アンケートについては平成23年9月に策定された一般廃棄物処理基本計画において実施し内容に反映させ、分別講習会やイベント会場においても簡単なアンケートを実施しているところである。引き続き、本市の意見や周知啓発を図りたい。</p> <p>転入者に対する周知では、市民課や各地区市民センターにて本市のごみ分別に関する冊子を配布したり、学生向けにごみ分別の講習会を行い、分別の周知啓発に努めて</p>

	<p>いるところである。</p> <p>転出者に対しては、引越しごみをごみステーションに出さないよう周知啓発を図っているところである。</p> <p>普段のごみ出しの中でも、資源物の分別が行われるよう周知啓発を図りたい。</p>
<p>郷間委員</p>	<p>何点か質問がある。</p> <p>1 今後の取組の中にごみステーションのパトロールとあり、従来からの強化となると考えるが、ルールが守られていないステーションの把握方法は収集委託事業者が「ルール違反」のシールを貼ったステーションの場所、貼付回数や分別の状況に関する情報を集約するなどのプロセスを強化するのか。ルール違反のステーションに対して、どのように対応していくが必要になると考えるが、どのように対応しているのか。また、自分の自治会では分別が不徹底なものを、班長である自分が規定に基づいた分別を行い、分別前と分別後の写真を撮影し、比較したものを回覧で回したところ、不徹底がなくなった経過がある。利用者間で相互に分別の理解を高める工夫を行えるよう市が周知を行い、場合によってはごみ袋への氏名記載も検討していく必要も検討しなければならない。併せて、分別状況が優良なステーションを表彰してはどうか。市民やリサイクル推進員のやる気を引き出す方法を検討してはどうか。</p> <p>2 学校や公園から多くの剪定枝が排出されている。来年度は剪定枝の資源化について取り組み、小型破砕機を貸出すと記載がある。</p> <p>実はこの分野で、宇都宮大学との研究をする機会があったのだが、剪定枝を泡状にして、そこに殺菌のための竹、生ごみを加えて堆肥化を促進させるという、剪定枝と生ごみを化合させて資源化する機械があるが、知っているか。</p> <p>3 資源の持ち去りが行われているデータを把握しているようであれば、件数や量、告発件数等を公表してはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>1 ルール違反のステーションについては、各地区のリサイクル推進員や委託事業者から情報を収集し、パトロールを行っているところである。今年度はリサイクル推進員から140か所の報告をいただき、パトロール等により120か所は改善が図られたところである。残り20か所は改善が図られなかったため、チラシのポスティングや集合住宅の場合は管理会社に改善するよう指導しているところである。</p> <p>また、焼却ごみ削減キャンペーンで新たに発見した分別の悪いステーションの情報については、自治会に情報提供し、行政が分別講習会を設定するなどして対応の強化を図りたい。</p> <p>分別状況の良いごみステーションについては、地域の美化推進が図られた結果であることから、リサイクル推進員の研修会等で紹介し、さらに啓発に当たりたい。</p> <p>2 剪定枝は、チップ化して土壌改良剤や肥料とする予定であるが、生ごみの資源化も図れるよう情報収集をしていきたい。</p> <p>3 資源の持ち去りについては、平成23年度に警告書を3件、禁止命令書を3件交</p>

	<p>付して、告発は0件であった。</p> <p>平成23年度は持ち去りに関する通報が114件あったので、現場を押さえられるよう、パトロールを強化していきたい。</p>
郷間委員	<p>最後に要望であるが、優良ステーションに優良である旨表示があれば、地域の方の意識が高まると考えられるため、仕組みに取り入れてほしい。</p> <p>ルール違反のシールを貼る件数が多い箇所については、委託事業者から数をフィードバックしてもらい、その数を自治会長に伝えるなどの仕組みづくりを検討していただきたい。</p> <p>剪定枝の資源化には様々なケースがあるので、宇都宮市ならではの取組を行えるよう、情報収集を行ってほしい。</p>
今井委員	<p>集団回収には子ども会を活用するなど地域差があるが、収集方法はどれくらい把握しているのか。</p>
事務局	<p>集団回収では10,700tの紙類やビン、缶が回収されている。実施団体は603団体が実施しており、総数7964回実施された。</p> <p>収集方法はごみステーション回収か拠点回収となっており、大部分がごみステーション回収を行っている。</p>
今井委員	<p>集団回収の回数は、1か月に1度なのか。</p> <p>出し忘れると大量の資源物を保管することとなり、地域によっては地域の倉庫に保管しているところもある。出しやすい方法で市が案内するとよいのではないか。</p>
事務局	<p>回収方法は、市による制限はない。回収を行う団体の実情に合わせて実施していただき、効率的に回収していただいているところである。</p>
今井委員	<p>自治会での収集が進むよう、市からも声かけを行ってほしい。</p>
北條委員	<p>要望である。自治会未加入者が3割以上いる現状を踏まえて、広報紙の折り込みに分別の冊子を挟んでほしい</p>
事務局	<p>自治会未加入者に対して、様々な方法で周知していきたい。新聞の折り込み等も含めて、検討していきたい。</p>
糸井委員	<p>自分の地域のごみステーションは、ごみ収集に来る時間が2時過ぎになることもあり、資源物の日は種類がステーション内で散乱していることも多々ある。ごみステーションをきれいに保つために、資源物の種類によって出す場所を示すような看板の設置を検討してほしい。</p>
事務局	<p>ごみステーション内の資源物の置き方は、地域の実情に応じて工夫していただいているところである。</p>
大森委員	<p>エコスラグの量が、平成24年度の計画値に対して見込み量が少ない理由は何か。</p>
事務局	<p>エコスラグに放射性セシウムが含まれていたことや、公共工事が落ち込んでいることから再利用が進まなかった。エコスラグの主な利用先としては、アスファルトに混ぜて建設工事に利用しているものである。</p>

	来年度については、現在の状況が改善し、利用が増えるものと考えております。
--	--------------------------------------

櫻井会長	質問がないので、事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし。